



<報告>5 年目を迎えた筑波大学MEIKEI オープン テニスの開催

著者	三橋 大輔
雑誌名	大学体育研究
巻	42
ページ	47-52
発行年	2020-03
URL	http://hdl.handle.net/2241/00159928

5年目を迎えた筑波大学 MEIKEI オープンテニスの開催

三橋大輔¹⁾

The 5th year of the University of Tsukuba MEIKEI Tennis Tournament

Daisuke MITSUHASHI¹⁾

I. 大会の概要とその意義

筑波大学 MEIKEI オープンテニス (<http://meikeiopen.jp/>) は 2020 年 3 月に第 5 回目を迎える ITF (International Tennis Federation : 国際テニス連盟) 公認の男子国際大会であり、世界ランキングを決める ATP ポイント (ATP: Association of Tennis Professionals) を得ることができる。大会にはいくつかのグレードがあり、この大会についてはそのグレードは最下層 (賞金総額 1 万 5 千ドル) に位置し若手プレイヤーらの登竜門であるとも言え (図 1), 世界

トッププレイヤーらもこういったグレードの大会からキャリアをスタートさせている。

大会は 1 週間単位で開催され、最下層の大会については ITF のルールにより同じ国で 3 週以上続けて開催しなければならない、2 月から他の大学 (早大, 慶大, 山学大, 亜大) と連携し、我々の大会は 3 月の最終週に開催している。筆者はこの大会のトーナメントディレクターであり、最高責任者となっている。大会の開催意義としては、以下の 5 つが挙げられる (図 2)。

1. 未来の錦織圭をあなたの手で

先述の通り、この大会はポイント獲得の場を提供することで若手プレイヤーたちの活躍をサポートし、ひいては日本テニス協会のレベルアップに貢献できればと考えている。この大会には多額の資金が必要となるため、企業、個人など多くの協力者 (スポンサー) が必要となる。そういった方々とともに大会を創り、プレイヤーを育てるという意義が含まれる。さらに大学が開催する意義としては、男子学生プレイヤーにもその機会を与えることで多くの試合経験をさせレベルアップさせることにある。普段は授業などのため海外へ ATP ポイントを取り

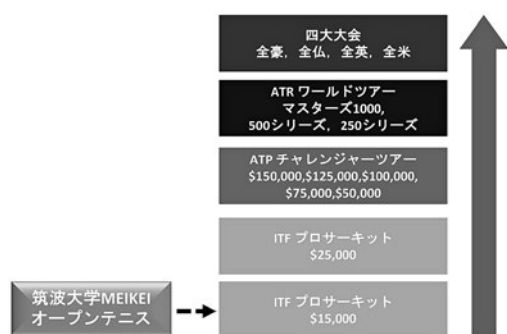


図 1 ATP ポイントが獲得できる大会のグレード

1) 筑波大学体育系

Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

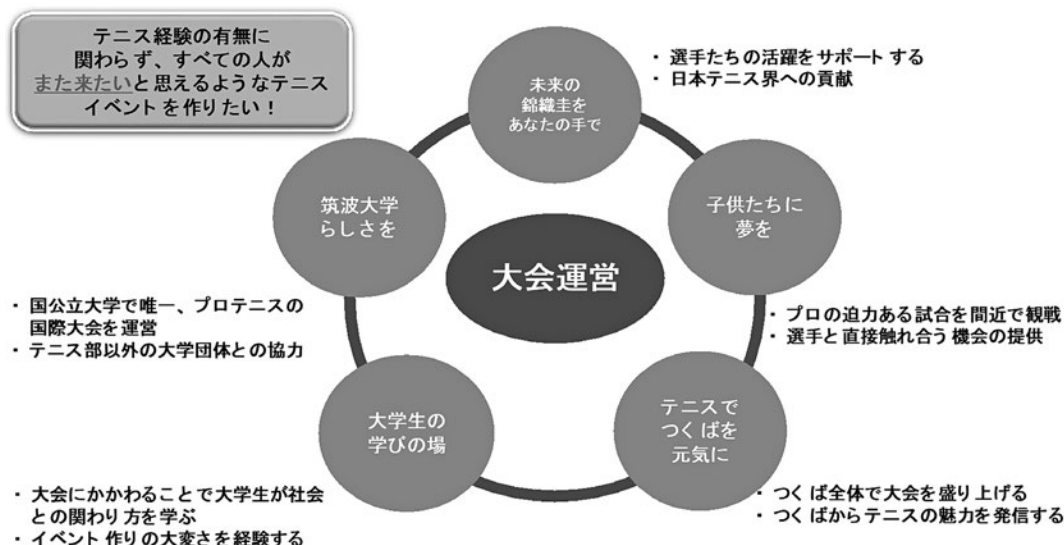


図2 大会の5つの開催意義

に行く機会が少ないため春季休業中に開催している。

2. 子供たちに夢を

観戦には地元をはじめ多くの子供たち（テニス経験の有無は関係なし）が来場する。その子供たちにプロの迫力ある試合を間近で観戦させ、プレイヤーと直接触れ合う機会を提供、さらには大会最終日には子供向けのテニス導入プログラムとしてITFが推奨するPlay & Stay (<http://www.tennisplayandstay.com/home.aspx>) イベントを開催することでテニスを始めるきっかけを与え、これからレベルアップを目指す動機付けとなることを期待している。

3. テニスでつくばを元気に

この大会を開催には多くの資金が必要となることは先述のとおりであるが、その資金の協賛依頼にはまず茨城県内の企業を中心にアプローチをしている。これは大学と地元企業とのコネクションを作り、それをきっかけに大会と企業の両方の発展を、さらにはつくば市のみならず茨城県内の経済活動の活性化にわずかながらでも寄与したいと考えている。またつくば市には公営、民間含め非常に多くのテニスコートが存在しており、テニス人口も多く愛好者向けの大会

やイベントが多く開催されている。こういった方達を対象にテニスクリニックなどのイベントを開催することで大学に脚を運んでいただき、または出向き、つくば市におけるテニスをより活性化させたい。

4. 大学生の学びの場

大会の準備、運営は筑波大学テニス部の学生がおこなう。準備の段階においては開催資金を協賛いただくために各企業、さらには大学近隣の飲食店にも足を運ぶ。他にも大学側との交渉、関係各所への後援依頼などのために各所に出向き、こういった活動の中で普段接触する機会の少ない年代の異なる社会人との交渉することで社会マナーなど様々な学びの場となっている。筆者としては、教育的観点からこの学生らの学びという点を特に重要視している。

5. 筑波大学らしさを

国内においては国公立大学で唯一筑波大学のみがITF公認の国際大会開催をしている。筑波大学の国立の総合大学という利点を活かし、学内の様々な部署、団体、そのOBOGら関係者の皆様にご協力いただき筑波大学らしさを出し他との差別化を図りたいと考えている。

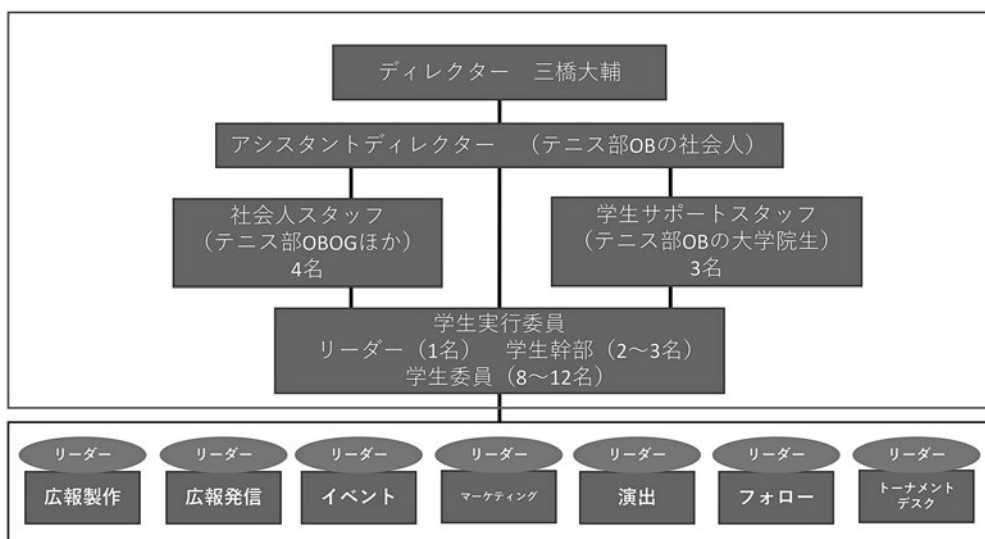


図3 実行委員会組織図

Ⅱ. 開催の経緯

2015年春、それまで故山田幸雄体育系教授（硬式テニス部部長）が中心となりテニス部によって開催されていた「筑波大学国際テニストーナメント」が、メインスポンサーの撤退により中止との決定が下った。筆者はそれまで大会のサポートをしており大会開催には多額の費用が必要であることを理解していたため、メインスポンサーの撤退であれば中止もやむ無しととらえていた。

しかしながらそれを学生らに伝えてから程無く、学生らは大会の存続を強く要望してきたのである。プレイヤーらに払う賞金（総額1万5千ドル）はもちろんのこと、国際審判員の手配（旅費と宿泊費は大会側が負担）、トレーナーの手配（日当を負担）など、ルールに則ったプレイヤーらのための準備に多額の費用が必要となり、メインスポンサーが不在となったためそれをゼロから集めなければならないことを説明した。それでも、彼らの意思は固く変わることはなかった。筆者としては大学生ら若手のポイント獲得のチャンスを提供すべきであること、筑波大学テニス部員が大会を運営することで様々

な学びが得られると考えていたので継続を考えていたものの、本当にそれだけの費用を集めることはできるのか？学生らの負担が大きくなるのか？少し悩んだものの、筆者が中心となり新たに準備、運営を行うこととなった。

Ⅲ. 準備

準備に際しまずおこなったのはテニス部内における実行委員会の立ち上げである。運営は全員でおこなうが、準備段階においては有志が集まり立ち上げた実行委員会を中心に進めた。そこでさらに学生リーダーを決め、各グループを作りそのリーダーを置き役割分担をした。また組織のチェック機能とサポートをするために外部から、テニス部OBOGの社会人数名と大学院生に実行委員会に入ってもらった（図3）。

その準備の中でもっとも重要となる作業は、やはり資金調達である。必要な資金としてはプレイヤーに支払う賞金（総額1万5千ドル）、ITFから派遣されるスタッフ（審判員など）の交通費と宿泊費及び日当をはじめとして、トーナメントドクター、トレーナーの手配、コートや施設の使用料金など多岐にわたる（表1）。これらについては企業への電話でのアポ取りか

表1 大会の主な必要経費

・プレイヤーに支払う賞金	・スタッフ（審判員など）の経費
・トーナメントドクターなどの口当	・コートや施設の使用料
・ITF、JTAの大会承認料	・イベント開催費
	など

ITF : International Tennis Federation 国際テニス連盟
JTA : Japan Tennis Association 日本テニス協会

ら始まり、先方に出向いてのプレゼンテーションなどを、地元企業をはじめ都内や関東各県の企業へおこなった。それ以外にも、地元のテニスクラブや関係者などに声をかけ、1000円からの個人サポーターを募り、クラウドファンディングもおこなった。

また大会数ヶ月前からつくば市内各所にポスター貼付の許可を得るために走り回り、FacebookやTwitter、YoutubeなどSNSを使って積極的にPR活動をおこなった。さらには事前イベントとして、筑波大学にてテニスクリニックやジュニアテニストーナメントを開催、また茨城県テニス協会と連携して指導者講習会などを開催し、それらで大会告知をするとともに、参加者からの参加料を大会資金として調達した。

準備には学内各所、関係者にもご協力いただいている。大会開催にあたっては大学には共催という形でお願ひし、期間中の備品などについても協力をいただいている。他にも大会最終日の決勝戦前にはダンス部や応援団によるパフォーマンス、レセプションパーティー内でのイベントとしてアコースティックギターの演奏などをお願いした。また大会をPRするポスターについては芸術専門学群の学生にデザインをお願いしており、毎年デザイン性の高いポスターを作成し（図4）、さらには大会のロゴデザインを筑波大学テニス部OBでデザイナーの方にデザインしていただいた（図5）。これらにより同じ国際大会を開催している他大学との明らかな差別化ができており、総合大学である筑波大学の特徴を示していると言える。

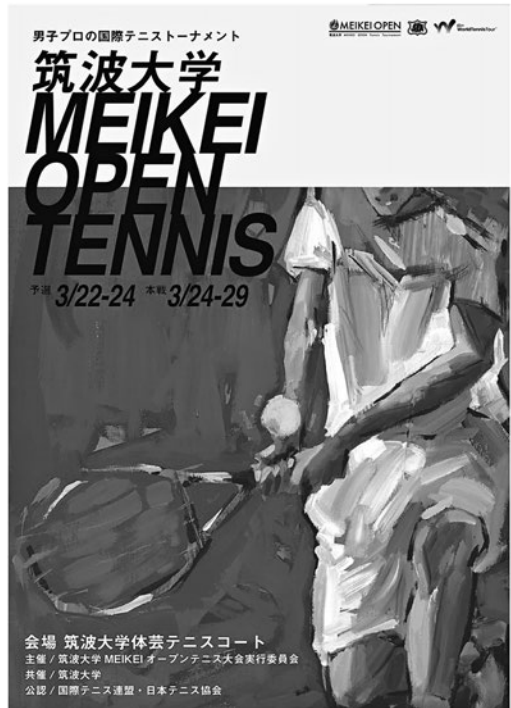


図4 2020年大会ポスター



図5 大会ロゴ

それ以外にも大会の開催ルール上、オフィシャルホテルを準備しなければならないが、大会に賛同してくれるホテルがつくば市内に見つかり、プレイヤーらへの手厚いサービスとホテルと会場となる大学までのシャトルバスの提供を受け、プレイヤーから非常に好評価を得ている。このプレイヤーらのオフィシャルホテルに対する評価は大会にとって非常に重要であり、この評価により来年度以降のプレイヤーのエントリー数に大きく影響する。このホテルには特に感謝したい。

IV. 開催

開催は毎年3月の最終週となっており、国内で他の大会と重ならないように調整しITFが承認したものとなっている。この大会には毎年多くのプレイヤーらがエントリーし、海外からも多くの若手プレイヤーがポイント獲得のために訪れる。彼らは登竜門らしく熱い戦いを見せてくれ、観客らを楽しませてくれる。これまでまたこの時期は大学のみならず多くの教育機関は春季休業であるため、外部から多くの学生やジュニアプレイヤーらがイベントに参加、あるいは観戦に訪れる。その彼らはこの戦いを観戦することで大きな刺激を受け、大きな夢を描いていることを願いたい。

また事前のPR活動の成果であると思いたいが、年々参加者および観戦者が増え続けている。第4回大会（2019年3月開催）には大会期間中で述べ約550名の観戦者（イベント参加者も含む）が会場を訪れた。シングルス決勝がおこなわれる最終日には、テニスコートのスタンドは様々な年齢の観戦者で埋まり、その後ろのペデストリアンデッキにはキッチンカーや売店（グッズ販売や飲み物など）、抽選会ブースなどを並べ、さらにはつくば市のイメージキャラクターである「フックン船長」、同じくシンボルキャラクターである「ツクツク」(<https://www.city.tsukuba.lg.jp/shisei/joho/profile/1004013/1004014.html>) を会場に招き

子供達を飽きさせないようにするなど、学生らのアイデアによるサービスを提供している（図6, 7, 8）。

それらの裏では大会期間中はテニス部員がフル活動し、朝早くから夜遅くまで運営のために走り回る。その中で、普段は大会に参加しサー



図6 大会風景（決勝戦）

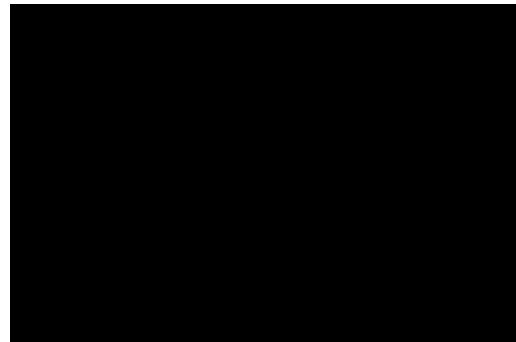


図7 大会風景（スタンド）

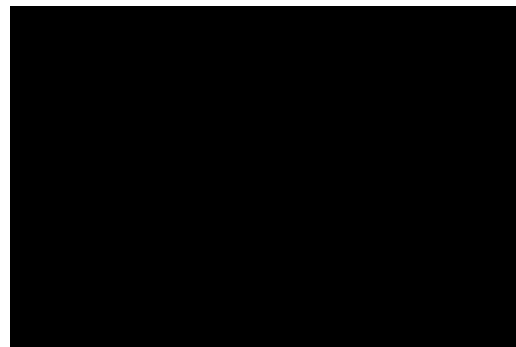


図8 大会風景（売店など）

ビスを受ける側であるのに対し、運営する側で活動することにより他人へのサービスをするという逆の立場に立つことで視野が広がることを願ってやまない。また大会期間中はどうしても学生らの練習時間が削られてしまうが、大会期間中は早朝練習、ナイター練習、さらには輪番制を敷き外部コートで練習するなど練習時間の確保についても工夫し、レベルの高いプレイを目の当たりにした直後にそれらを自分のテニスに落としこめるよう努めた。

V. 今後

これまで4回にわたり大会を開催して来たが、これまでプレイヤーや関係者からは良い評価を得ているように思う。また学生らは苦勞をしながらも大会を運営、準備をすることで様々なことを学んでいるという意味では大会は順調

であると思われる。以前は、いずれ図1にあるようなワンランク上の大会へグレードをアップさせることも考えたが、今以上に運営資金が必要であること、学生らへの負担が増えることなどから、引き続き大学生や若手プレイヤーらへポイント獲得の場を提供できるような大会を開催していこうと思う。しかしながら、大会のグレードはアップさせないものの内容をアップさせることは常に考え、プレイヤーのため、また多くのご協力いただいている皆様のためにより良い大会を継続して開催していくとともに、運営する学生らにとって大きな学びを得る場であってほしいと思う。

最後になるがこの大会は学生が中心となっているが、多くの皆様のご協力、ご協賛なくては運営は不可能である。その皆様にはただただ感謝を申し上げる次第である。